



日本医療福祉生活協同組合連合会

東日本大震災支援ニュース No.24

(2011年3月28日 19時現在)

被災地の医療福祉生協の状況

○八戸医療生協

組合員が連日、組合員宅をはじめ地域訪問。26日は、八戸市の市川町を訪問。「店は床下浸水でしたが、家の中は大丈夫でした。家族は大丈夫でした。わざわざ有難うございます」「家の裏まで水が上がってきましたが、自宅は大丈夫でした。具合が悪くなった方もいません。大丈夫です」「津波が保育園の中まで入り、泥だらけだった。園内を掃除し、22日より再開。体調を崩す職員はいないが、園児の中には熱を出す子も」(3月26日地域訪問行動メモより抜粋)

○松島医療生協

23日、松島海岸診療所歯科の歯科ユニット11台を分解組合せで、3台稼働できるように。しかし、断水のため診療はなかなかできない。3月28日、理事長、組合員、全日本民医連、医療福祉生協連で協議し、組合員による組合員訪問を3月29日から開始することに。3月31日、松島海岸診療所デイケアを一部再開。断水改善の方向。これが復旧するとライフラインは復旧。(28日付現地支援活動中の医療福祉生協連職員山田氏からのメール)

○郡山医療生協



3月26日、職員全体集会(写真)を開催し、今後の対応方針を確認。①建物や設備の被害状況が明らかになり、その対応②これまでの縮小診療から4月の職員体制を踏まえながらの日常診療体制の拡大③介護事業はガソリンの確保を進めながら全面再開に向け拡大④組合員送迎バスの運行⑤避難所への医療支援、組合員への訪問激励活動、総代会に向けた準備——。(対策本部ニュースNo.12より)

○福島中央市民医療生協

27日、理事長と診療所所長が、避難所になっている県立明成高校へ医療支援。事前に連絡をしていたため、スムーズな診察が可能に。同避難所への医療支援は、24日の慈恵医大以来、2回目の模様。今後、理事長と所長が交代で、医療支援を行うことに。

ろっこう医療生協より、支援物資第2便が到着。うがい薬、マスク、湿布(冷・温)など。

福島中央市民から送られた文書「東北地方太平洋沖地震及び長野県北部の地震に伴う保険調剤の取り扱いについて」によると、「4. 災害救助法に基づく救護所や避難所の救護センター等から発行された処方せんの取り扱い」について、「災害のために基づく設営された救護所等は保険医療機関ではないので、当該調剤に係る報酬の請求は、救護所の設置主体である県や市町村に請求します」。(3月28日付地震対策本部ニュースNo.14)

28日、明成高校(避難者84人)へ支援物資の砂糖、食器、かいろ、お菓子を届ける。福島市清水学習センター(避難者76人)へ、支援物資の男性用肌着等を届ける。支援物資の提供について学習センター側と相談。ニーズは個別性が高くなってきており、聞き取りをしたうえでリストを作り、にじのまちに物があれば対応することに。(3月28日付対外的支援活動報告より抜粋)

○福島医療生協

25日、あずま支部は震災・原発事故対応のため、臨時の支部運営委員会を開催。①組合員の状況を把握する②そのために機関紙を手配りしながら対面で話をする③困っていること、欲しいものなどを聞く④必要なら手配して届ける⑤それぞれの状況に合わせてボランティアに参加する——ことを決定。

26日、東日本大震災新潟物資支援センターから第2便トラックが到着。また、東高校に避難している210人への炊き出しは、渡利学習センターの協力を得て、渡利支部・中央支部を中心とする組合員の力で継続。26日のメニューは、お粥、肉じゃが、味噌汁、おひたし、みかん。(3月26日付東日本大震災対策ニュースNo.12)

○浜通り医療生協



3月24日、高齢者住宅7床再開

3月25日、岡小名通所リハビリ再開(写真、家族送迎出来る方のみ)

3月26日、認知症対応型通所リハビリ再開(家族送迎できる方のみ)

3月28日、クリニック外来再開予定(若干の制約あり)
(3月27日付メール)

支援状況

○盛岡医療生協



大船渡市に25日から医療支援を開始。25日、26日は理事長ら2名が支援に。また、第3次救援隊6名が、3月25日8時に大船渡へ向け、川久保病院を出発。26日から第3次救援隊に医師が加わり7名に。(3月26日付対策本部ニュースより抜粋)

○栃木保健医療生協



3月27日、看護師2名、事務2名が、宮城県塩釜市で、医療福祉生協連と全日本民医連が協同で実施する、塩釜市・多賀城市で避難所生活をする約2万人の医療支援、生活支援に参加。途中、福島市の福島医療生協の医療生協わたり病院に寄り、救援物資を届ける。(3月26日付2010年度チャレンジ1200推進ニュースより抜粋)

福島医療生協本部で、元栃木保健医療生協の看護部長で現福島医療生協理事の阿部ツギ子さんと再開。予定よりやや遅れて、宮城県塩釜市にある被災地支援拠点の病院に到着。4人は、「地域訪問チーム」にそれぞれ配属され、被災地域を訪問(写真)。(3月27日付対策本部ニュースNo.6)

○茨城保健生協

3月28日(月)から3月30日(水)まで宮城県塩釜市の支援拠点病院へ事務3名と地域の看護師2名を派遣。28日6時30分に物資を積んで出発。29日(火)か30日(水)どちらかの日に、浜通り医療生協へ飲料水等を届けに行く予定。(3月28日付須貝専務よりメール)

○医療生協さいたま

支援隊第5班の医師1名ら5名が無事、宮城県塩釜市の支援拠点病院から帰任。病院での診療だけでなく、避難所や自宅へ訪問したり、物資を避難所に届けたり。26日7時、医師を隊長に、薬剤師1名、看護師1名、事務1名の計4名が宮城県塩釜市の支援拠点病院に向けて出発。

埼玉西協同病院正面の所沢市民武道館が、避難所に。また、飯能日高地域の運営委員さんの居住地域にも避難者が入り、支部運営委員さんにできることはないかと、物資を集めて、届ける。(3月26日付、東日本大震災対策本部ニュースNo.17等より抜粋)

○川崎医療生協

事務1名、医学生1名の第6次宮城支援チームが3月27日朝、出発。帰ってきた第5次宮城支援チームが早速ふりかえりを実施。「①医師中心の支援から、保健師・看護師・介護福祉士・保育士等の職種に切り替える②被災者の心のケアが必要～大人だけでなく子どもたちも～③支援にあたって、ニーズは絶えず変わる。行ってきたチームとこれから行くチームとの申し送りが必要。現地との情報交換が必要④チームのコーディネーターとして事務の役割が大事。『報・連・相』などの意見。(3月28日付大震災対策ニュースNo.21より抜粋)

○神奈川北央医療生協

3月18日から21日にかけて宮城県の支援拠点病院へ1名を派遣。また、募金は、3月26日現在、413,818円に。

○医療生協かながわ

被災地(災害救助法適用市町村)から避難された患者が来院。福島県双葉郡楢葉町(ふたばぐん ならはまち)の方で、中田南在住の娘さん宅に避難。(3月25日付『東日本大震災』対策本部ニュースNo.21より抜粋)

○東京ほくと医療生協

27日、職員が、スーパーのサミット前で募金行動を行う。王子生協病院の院長がハンドマイクで訴え。短時間ながら、1万円の募金をしていただいた方はじめ、34,850円の募金が寄せられる。(東日本大震災緊急支援ニュース8号より抜粋)

○富山医療生協

富山医療生協も加盟する富山県生活協同組合連合会(県生協連)が3月26日(土)福島県生活協同組合連合会(福島市)に支援物資を搬送。支援物資、毛布・燃料・タオルと福島医療生協宛の医療材料を一緒に届けてもらう。(3月26日付東日本大震災富山民医連支援ニュースNo.10)

○医療生協かわち野

医療生協かわち野の全事業所で取り組まれている義援金が現在280万円(かわち野福祉会分含む)を超え、23日、大阪民医連へ100万円、医療福祉生協連へ150万円を送金。被災地へ届けられるお米に「応援メッセージ」も。(3月24日付東北関東大震災地震対策ニュースNo.7より抜粋)

看護師1名が27日から30日まで、また介護福祉士1名が3月30日から4月3日まで医療支援に参加。

○西成医療生協

皆さまから寄せられた「東日本大震災」緊急支援募金26,504円を28日、医療福祉生協連の口座に送金。これまでの送金合計は、1,155,062円に。

○尼崎医療生協



第3次医療支援隊、27日に宮城県塩釜市の支援拠点病院に到着。早々に、医師1名、看護師1名、介護福祉士1名が避難所で診察開始。堀介護福祉士の現地レポート「被災後、2週間が経過し、避難所のプライバシーの問題が顕著化していたり、避難所で徘徊をしている方が『薬を取りに行く』と言われたりと、介護保険が機能していない現状など、まだまだ多くの問題がある」「夫とこれからの生活のことで口論となり、血圧が高くて診察に来られた女性の方。阪上師長が問診をして傾聴したところ、興奮され泣き出される場面も。今後は医療支援だけでなく生活支援、そしてメンタルケアが大切になってくる」。26日、3月度定例理事会では、支援募金、支援物資についての取り組む状況や今後の支援体制のあり方を協議。現地では手に入りにくい、レトルト食品などを支援募金から購入し、被災地へ直接送るなども提案、了承。

27日、兵庫県民集会(メリケンパークで開催)の後、東日本大震災支援募金活動をJR三ノ宮駅周辺で実施。(3月28日付東日本大震災救援ニュースNo.12より抜粋)

○愛媛医療生協

25日(金)午後、看護師3名、薬剤師1名が第二次医療支援に出発。3月31日(木)帰任の予定。宮城県塩釜市の支援拠点病院の医療維持と避難所回りなどに参加予定。

(3月28日付、支援ニュースNo.5より抜粋)

○広島中央保健生協

27日、副理事長の医師が福島県で活動。3月30日(水)から4月4日(月)にかけて医療支援第2陣として、医師1名、看護師1名、検査技師1名が出発へ。(3月28日付支援対策ニュースNo.12より抜粋)

○高知医療生協

28日、東日本大地震第2次支援隊として、四万十診療所の職員1名が出発。要望のあった血圧計を持参。(3月28日付東日本大地震災害支援ニュースNo.11より抜粋)

○徳島健康生協

第3隊が26日(土)現地着、支援開始。支援第3隊の医師1名と看護師1名は、26日(土)宮城県塩釜市の支援拠点病院に夕方到着し、早速医療支援に。村上看護師の支援報告「地域訪問では、避難所にいる人は自衛隊のお風呂支援など受けられていましたが、自宅にいる人は支援物資も届かないので自分で用意しなくちゃいけないのですが、ガソリンもないので買い物にもいけない、明日で食料もつきると言う高齢の人がいました」。 (3月28日付「東日本大震災」支援ニュースNo.9より抜粋)

○大分県医療生協

第2次医療支援の3人が現地到着。保健師の本田さん「これからは避難所や地域回りをして、慢性疾患患者の悪化防止やメンタルケア、子供たちのストレスケアなどに着手していると現地の説明です」。 (3月28日大分県医療生協支援ニュースNo.5)

医療福祉生協連は義援金口座を開設しています。

災害義援金口座は次のとおりです。

(専用口座)

三菱東京UFJ銀行(0005)原宿支店(店番627)

普通預金 0041240

日本医療福祉生活協同組合連合会 東日本大震災義援金口

※振込元に生協名を入れてください

寄せられた義援金は地方公共団体、公的機関等を通じて被災した地域への支援に使われます。義援金についてのお問い合わせは担当(椎野)までお願いします。

担当：江本 (at_e@hew.coop)・丸山 (kj_m@hew.coop)
電話：03(4334)1580、FAX：03(4334)1585